

令和5年度 調布市立第一小学校 学校経営計画（学校長 樋川 宣登志）

学校の教育目標	
○よく考え、自分から進んでやりぬく    ○思いやりの心もち、なかよく協力する    ○じょうぶなからだで明るい生活をする	
目指す学校像(ビジョン)	
「子どもたち一人ひとりを大切にする学校」	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>学校の主役は子どもたちであり、一人ひとりの子どもが大切にされ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体がはぐくまれてゆかなければならない。学校は集団で生活し学ぶ場であるが、子どもたちは一人ひとり、違う環境で育ち、違う心と個性、願いをもって生きている。子どもたちが、自分は大切にされ、尊重されていると感じ、安心して生活して学ぶことができる学校を目指す。</p> <p>◇各学年・学級は落ち着いていて、真面目に学習に取り組む様子が見られる。基礎学力の定着も望ましい状況である。</p> <p>◆主体的に学習に取り組んだり、自分の気持ちを豊かに表現したりする姿が十分でない面が見られる。</p> <p>◇おだやかで協力的な子どもが多く、大きな事故などは少ない。</p> <p>◆粘りやこだわりが欠ける面が見られる。不登校児童、学校生活への適応に困り感を抱いている児童も少なくない。</p>
中期的な経営目標	
<p>① 自律した行動のとれる判断力と、豊かな心を醸成する。</p> <p>② 主体的に粘り強く学ぶ気持ちを大切に、学習意欲を高め、学力向上を図る。</p> <p>③ 健康保持・体力増進のために考え、判断する力と積極性を育てる。</p> <p>④ 安全・安心な学校生活を確立する。</p> <p>⑤ 子どもたち一人一人の個性を大切に、伸長していく。</p> <p>⑥ 保護者・地域の教育力を活用して学校の教育活動、児童の安全確保を充実させる。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①読書活動、文化文芸的活動の充実を図り、児童の潤いある心をはぐくむ。(読書旬間、年2回。日々の読書活動、通年。)	①授業観察(年2～3回)、校内研修を通して、授業スタイルと授業規律を全校で共有し、学習効果を高める。(通年)	①なわとび・持久走期間の取組を充実させ、運動技能や体力を育てるとともに、運動への関心を高める。(全学年)
②交流等を通して、互いを認め合い尊重する心、自尊感情を育てる。(縦割り班活動、アメリカンスクールとの交流、全校遠足等)	②校内研究「進んで伝え合おうとする児童の育成」を図る授業を構築する。(研究授業4回)	②前年度の健康教育研究の成果を継続し、児童の健康への意識を育てる。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①アンケートで、文化文芸的活動や読書に関する肯定的評価 80%以上。	①アンケートで、学力の定着に関する肯定的評価 80%以上。	①②アンケートで、健康・体力に関する肯定的評価 80%以上。
②アンケートで、交流・体験活動に関する肯定的評価 80%以上。	②アンケートで、自主的な学習態度に関する肯定的評価 80%以上。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 安全・安心な学校生活の確立	5 個性の尊重と伸長	6 保護者・地域の教育力の活用
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①感染症予防、アレルギー対応のルールを確実に実施する。(通年)	①特別支援教室専門員・スクールサポーター等による授業補助や個別指導を行い、個別最適な学びを目指す。(通年)	①PTA 行事や地域行事について、保護者・地域と連携して活性化を図る。(通年)
②定期的な状況把握、いじめ防止対策委員会の組織的な対応を行い、未然防止と早期解決を図る。(通年)	②校内委員会の活用、関係機関との連携などを通して、支援の必要な児童、不登校児童、保護者への支援を充実させる。(通年)	②PTA・地域団体の協力を得て、防災・防犯、交通安全の協力を得る。(通年)
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①アレルギー事故0件	①②アンケートで、相談・対応に関する肯定的評価 80%以上。	①連携行事について、学校関係者評価委員会における肯定的評価。
②発見したいじめ案件の解決 100%。		②交通事故、犯罪被害0件。

人材育成・組織運営
<p>◇主幹・主任教諭をリーダーとして各分掌に配置し、自主的・計画的に職務を進める組織作り、組織的取組を進める。適宜、校長と各リーダーとの打合せを通して、ミドルリーダーの育成を図る。</p> <p>◇研究主任、OJT 担当をリーダーに校内研究・研修を開催し、教員の資質向上を図る。</p> <p>◇業務の効率化、職員のライフワークバランス改善を目指し、会議・業務等の整理削減、ICT 活用を進める。SSS や副校長補佐を計画的に活用する。</p>